

令和 6 年 11 月 18 日

蕨市議会議長 様

会派名 日本維新の会
氏 名 鈴木 慎乃助

先進地視察調査報告書

次のとおり先進地視察調査を行ったので報告します。

1. 調査年月日	令和6年11月15日（金） 日帰り		
2. 調査先・ 調査項目	おうちにかえろう。病院 病院視察及び運営に係る調査研究		
3. 参 加 者	鈴木 慎乃助		
4. 宿泊場所			
5. 費 用	宿泊費	円	夕食代 円
	交通費	円	その他(見学費) 9167 円
	土産代	円	合 計 9167 円
6. 調査内容	別紙のとおり		

※上記の先進地視察調査で支出した政務活動費について、全ての領収書またはこれに準ずる書類を添付すること。また、旅行代理店等を通じて手配した旅費、宿泊費等は、その詳細（旅費、宿泊費等の内訳）も添付すること。

広聴会・研修会等（参加）実施報告・先進地視察調査報告

会派名 日本維新の会

(/ 頁)

「おうちにかえろう。病院」の入院の目的は「病気の治療」という概念に捉われていないものであった。復帰出来る方だけを受け入れ、医療機器を置かないため急性期の患者さんは受け入れをしないという、とても割り切った病院運営をされていて、総合病院とは真逆の発想と感じた。何よりも入院している患者さんが、退院した後には自宅で日常生活が出来るのかという考えを軸に置いた病院づくりをしており、患者さんと向き合う時間が一番長い、看護師、セラピストが主役という新しい発想から考えられていた。患者さんの退院の許可権限を医者には与えていないというのも驚いた。施設自体は大きくなくても、医療機器を置かないため、ナースステーションも区切りをなくして看護師と患者さんがコミュニケーションをとりやすいよう、オープンスペースになっていた。患者さんが「退院がスタート」という思考になるように、家に帰ってから出来る事は院内でも行っていく考えで、飲酒なども認めていた。急性期の受け入れをしていく総合病院とは真逆の発想の病院であったが、新しい藤市立病院に取り入れられることは、たくさんあり、地域包括医療病棟というものがこれからは必要となると感じた。地域のクリニックと連携を取りながら、多くの方たちに受け入れられて、必要とされる病院を目指していくことが重要だと感じた。